

年 組 名前:



オルゴールの歴史や特徴などを紹介する伊集盛礼さん
＝北杜・萌木の村オルゴール博物館ホール・オブ・ホールズ

北杜・学芸員の伊集さん

北杜市高根町清里の伊集盛礼さん(29)は、同所の萌木の村オルゴール博物館ホール・オブ・ホールズで、学芸員としてオルゴールの歴史や魅力を来場客に解説している。幼少期に訪れた同館でオルゴールの音色などに魅了され、夢を実現させた。「オルゴール業界を盛り上げられるように魅力を発信していきたい」と話している。(井村賢紳)

オルゴールの魅力伝える



井村 賢紳
木場 菜摘

幼少期に感動 萌木の村へ

伊集さんは愛知県尾張旭市出身。4、5歳の頃、両親とともに旅行で清里地区を訪れた。たまたま立ち寄った同館で流れるオルゴールの音色に「ピアノみたいに鍵盤を弾くわけではなく、ボタン一つで迫力のある演奏が流れることが不思議だった」と引き込まれた。学生時代は年に数回、同館を訪れたほか、河口湖音楽と森の美術館(富士河口湖町)やニテックオルゴール記念館すわのね(長野県)などにも足を運んだ。大学生のときに学芸員の資格を取得し、実習先として萌木の村に受け入れを依頼し、学芸員としての仕事内容などを学んだ。2024年4月に萌木の村の社員となり、オルゴール博物館ホール・オブ・ホールズに勤務し、入社2日目にオルゴールの演奏を任せられるなどしている。現在は200台以上ある自動演奏楽器やオルゴールについて来館者に説明をしているほか、オルゴールによるコンサートの会場設営などを担う。

萌木の村の松木上次社長は伊集さんについて、「オルゴールが好きで入社した社員はこれまでほほいかなかった。好きな人だからその視点で、博物館を盛り上げるような取り組みを期待している」と話す。

日本オルゴール愛好会によると、23年10月時点で個人の運営も含め国内に23館あったオルゴールの博物館は、昨年10月までに7館が閉館。新たに1館が京都府内にオープンした一方、残る16館の中には、現在開館しているか確認できていないケースもあるという。

伊集さんは「他のオルゴール博物館とも連携し、オルゴール業界全体を盛り上げていきたい」と先を見据えている。

(2026年1月27日付 山梨日日新聞 17面)

問1 北杜市高根町のオルゴール博物館で働いている伊集盛礼さんは、いつから、何に魅了されて、現在の仕事をしていますか。

.....

問2 現在、伊集さんは、どのような仕事に携わっていますか。

.....

問3 伊集さんは、幼いころから憧れた夢を諦めずに、現在、オルゴール博物館で働いています。あなたは、将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。その理由も教えてください。

・職業:

・理由: